

低回収率とした RO 膜の性能

大阪透析研究会会誌 21 巻 2 号 : 147 - 150 , 2003

和田 茂・丸山禎之¹ / 金川美彦・脇川 健・山田明子・佐々木敏作² (大阪掖済会病院 透析室¹ / 内科²)

【要旨】RO 水の回収率を 60%以上とした高回収率と約 48.5%の低回収率での RO 膜の性能について比較した。

高回収率期間の膜の FRI は 1.8 前後の低値にて推移し、電導度除去率は使用 18 ヶ月目には 91.8%に低下した。しかし、低回収率による RO 水の採取の FRI は当初、2.8 から 33 ヶ月まで漸増し、その後は 4.7 前後にて安定した。また電導度除去率は観察期間となる 4 ヶ年において 98%を下回ることはなかった。また RO 水中の微粒子数やエンドトキシン(ET)濃度も低値となり、その作成による透析液の ET 濃度は 4.1 ± 3.1 EU/L にて推移した。

RO 水の低回収率は水質浄化装置などを必要としない簡易的な水質浄化法と考えられた。